

二次林及び針広混交林におけるウダイカンバの活用を目指して

中部森林管理局 富山森林管理署
総括森林整備官 山本 通明
地域技術官 住 裕介

1 課題を取り上げた背景

^{ながとう}長棟国有林では広葉樹伐採跡地において、先駆的にウダイカンバが成長して二次林を形成しており、スギの不成績造林地においてもウダイカンバが侵入し針広混交林を形成しています。

このため、ウダイカンバの将来的な木材利用を目指すために、現在の二次林及び針広混交林の成長過程を調査し、富山署における大径木産を目標とした今後の施業方法について検討しました。



ウダイカンバ林

2 取り組みの経過

① ウダイカンバ二次林の間伐試験地

当国有林内に間伐区と対照区を設定し、立木調査による施業後の経年成長と樹幹解析による成長の推移を調査しました。

② 針広混交林除間伐試験地

当国有林内に除間伐作業を行う間伐区及び対照区を設定し、除伐・間伐がもたらす成長への影響を調査しました。

3 実行結果

① ウダイカンバ二次林間伐試験地

立木調査の結果、胸高直径、樹冠面積ともに対照区に比べ間伐区の方が大きくなっており、北海道の調査結果と比較してみると、両区とも良好な成長となっていました。しかし、樹冠解析でみると、初回間伐では間伐区の直径成長量が増加しているのに対し、二回目間伐では効果がみ

られませんでした。

② 針広混交林除間伐試験地

間伐区は、樹高階分布が高い階層へ推移しているのに対し、対照区では経年に伴い分布のばらつきがみられました。また、ウダイカンバは上層木の直径推移において、二次林間伐試験地と比較すると成長が劣っていることがわかりました。

4 考察

① ウダイカンバ二次林間伐試験地

今回の結果から間伐効果はあったといえますが、二回目間伐で効果がみられなかったのは、中下層木を間伐したためと考えられます。

一方、この結果から初回間伐で適度な間伐を実施すれば、約20年後までの成長に十分な効果を発揮すると考えられます。

② 針広混交林除間伐試験地

除間伐によりウダイカンバによるスギの被圧は緩和できたと考えられますが、二次林間伐試験地に比較して成長が劣るため、更なる上層木の間伐が必要であると考えられます。

5 施業方法の検討

今回の試験地データ等から成長曲線を作成したところ、本数密度を適正に管理すれば、高値取引が期待される大径木生産が可能と考えられます。

今後は、大径木生産に向けて間伐を初回の実施時期と上層木の伐採に留意しながら行うとともに、有用広葉樹の発生を図り、母樹を保全した主伐を実施する等、天然力を活用した施業方法を具体的に確立したいと思います。



昨年度、高値取引された長棟国有林のウダイカンバ